

福祉について学んでみよう!!

▶ 福祉学習の講師派遣
▶ 疑似体験グッズなどの貸し出し

大垣市社会福祉協議会は、「高齢者」「障がい者」「バリアフリー」などをテーマとする福祉学習に対し、講師派遣や疑似体験グッズなどの貸し出しを行っています。



市内の保育園・幼稚園・幼稚園、小中高等学校はもちろん、地域での子ども会や自治会・婦人会、各種団体・サークルの福祉学習にも、ご活用いただけます。

詳しくは、同協議会ホームページをご覧ください。

貸し出し備品（最大貸し出し数）			
アイマスク	110枚	高齢者・障がい者 疑似体験グッズ	20セット
白杖	25本		
点字板・点筆	190セット	車いす	10台

申込 & 問合せ 大垣市社会福祉協議会 ☎78-8181

障がい者福祉制度

～主な手当・助成やサービスなど～

現在、市が市内在住の障がい者を対象に行っている各種手当・助成や福祉サービスなどの主なものを紹介します。詳しくは、社会福祉課（☎47-7298）へ。

手当・助成

「※」印の手当・助成については、所得制限があります。

障害者福祉年金※

身体障害者手帳4級以上、療育手帳B1以上、精神障害者保健福祉手帳2級以上の人に、年額5,200円～20,900円を支給します。市民税課税世帯は、支給額が半額になります。



電話利用料金※

身体障害者手帳の視覚障害1級、聴覚障害1・2級、下肢、体幹障害1・2級で在宅の人に、電話利用料金の一部を助成します。



タクシー代・ガソリン代※

身体障害者手帳の下肢、体幹障害1・2級、視覚障害1級、内部障害1級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級、特定疾患医療受給者で在宅の人にタクシーまたはガソリン代の一部を助成します。

生活環境料金※

身体障害者手帳3級以上、療育手帳B1以上で在宅の人に、上下水道・簡易水道・し尿汲取り料金の一部を助成します。市民税課税世帯は、助成額が半額になります。



交通費

精神障害者保健福祉手帳を持っている人で通所施設へ通っている人の鉄道の交通費、また、在宅の知的障がい者および付添人が通学・通勤などにかかる交通費の一部を助成します。

サービス

「※」印のサービスについては、原則、利用料の1割を負担。ただし、所得による負担上限あり

居宅介護※

ヘルパーが訪問し、自宅で入浴や食事などの介護を行います。



生活介護※

日中、施設において入浴や食事などの介護を行うほか、創作活動などを行います。

施設入所※

入所施設において、入浴や食事などの介護を行います。

訪問入浴サービス※

家庭や施設で入浴することが困難な重度身体障がい者の自宅に移動入浴車が訪問し、週2回まで入浴の介助をします。

就労移行支援※

一般企業などへの就労を希望する人に、一定期間施設へ通所し、就労に必要な知識の習得や能力向上のための訓練を行います。

就労継続支援※

一般企業などへの就労が困難な人に、通所施設などの働く場所を提供するとともに、就労に必要な知識の習得や能力向上のための訓練を行います。

手話通訳者などの派遣

聴覚障がい者のコミュニケーションを支援するため、手話通訳者などを派遣します。

車いすの貸出

歩行困難などにより、一時的に車いすが必要な人に、原則1か月を限度に、車いすを無料で、お貸しします。



マンガで福祉の心を紹介



市は、障がい者福祉充実のため、さまざまな事業・サービスを行っています。

先ごろは、広報別冊マンガ「ともに生きる」を発行し、広報11月1日号と同時配布を行いました。マンガでは、心の壁を越え、一歩踏み出す勇気を持つことの大切さ、障がい者への声掛けの実践などを紹介しています。

皆さん、ぜひ、ご一読ください。お手元がない場合は、市ホームページでもご覧いただけます。

障害者週間記念講演会

12月3日から9日までの「障害者週間」に、全国各所で障がい者福祉の啓発活動が展開されます。

大垣市では、12月6日に総合福祉会館で、記念講演会を実施します。参加は無料です。お気軽にご参加ください。

- ※とき／12月6日(土) 午後1時～3時
- ※ところ／総合福祉会館
- ※内容／のぞみの丘ホスピタルの臼井潤一郎さんによる「ともに生きる～ひとりひとりへの思いやり～」と題した講演
- ※定員／250人（先着順）
- ※申込／社会福祉課（☎47-7298）へ

思いやりのある子への成長を願う

6年学年主任 河合麻紀先生



今回は、全員が段差やスロープでの車いす操作を行いました。車いすにとって難所となる段差では、介助役の仲間が手助けをし、力を合わせて対応する姿が見られました。

子どもたちは、普段は気づかない小さな段差でも、視点を変えると大きな壁になることがよく分かったようです。また、一人では越えられない壁も、仲間との協力で越えられることを学んでくれたと思います。

介助する側・される側、双方の気持ちを理解することができた今回の体験を生かし、困っている人がいたら、誰に対しても一声掛けられる思いやりのある子に成長してほしいと願っています。